

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校 児童生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

支援の必要な児童生徒のための「支援機器・グッズ」を活用した支援推進事業

事業の経過・背景・課題

「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（文科省、令和4年12月発表）での結果が示すように、京都市においても、知的発達に遅れはないものの支援を必要とする児童生徒は年々増加しており、通常の学級や学校生活における支援が求められている。

読み書きの障害や集中すること、聴覚過敏等の様々な困難を支援・補完するための各種の「支援機器・グッズ」について、京都市では、平成30年度から学校園への貸出を開始し、通常学級での合理的配慮や代替手段としての活用へとつながられるよう、その普及啓発に取り組んでいる。

各機器の機能は進歩しており、子どもたちにとってより最適な支援方法を研究・試行するとともに、「支援機器・グッズ」を活用した支援の普及・啓発をすすめることで、児童生徒の困りの軽減を図り、学校における合理的配慮の促進を目指す。

取組内容

交付実績額： 3,000 千円

〇「支援機器・グッズ」4種類をLD等通級指導教室112校（小学校81校中学校31校）へ配備し、LD等通級指導教室の担当教員等を中心に貸出を実施

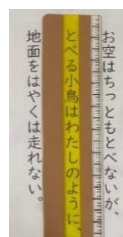
支援機器等名称・性能	対象	主な効果
①座位保持クッション (椅子に装着し、無理なく正しい姿勢を保持)	授業中正しい姿勢を保つことが苦手な児童生徒	・姿勢が安定し集中できる時間が増えた。 ・授業中の離席が減った。 ・落ち着いて座って学習に取り組むことができた。
②自助具(文具)セット(※) (様々な読み書きの困難を支援する文具類)	読み書きや細かい作業が苦手な児童生徒	ガイドライン付定規：文字が動いて見えるのが軽減され読みやすくなった。 ザラザラ下じき：鉛筆の操作がしやすくなり、枠内に文字が書けるようになった。 コンパス：中心がずれることなく、軽い力で円が描けた。
③デジタル耳栓 (環境音だけを9割近くカットし、声は聞くことができる)	聴覚過敏や周囲の雑音が気になり授業に集中することが難しい児童生徒	・一般的な耳栓よりも、騒音によるストレスは大幅に軽減された。 ・環境音が低減され、先生の声は聞こえやすくなり授業に集中できた。 ・教室がうるさく感じ入りづらさがあったが、教室に入ることができた。
④センサーツール (椅子の脚に装着し、足裏に感覚刺激を与えることで集中しやすくなる)	集中しづらい、多動がみられる、姿勢が乱れる児童生徒	・姿勢が良くなり、集中して授業に向かうことができた。 ・足を上げる、鉛筆を噛む、頭を叩くといった行動が減った。

※ガイドライン付定規、ザラザラ下じき、コンパス、ボールペ、白黒定規等9種

①



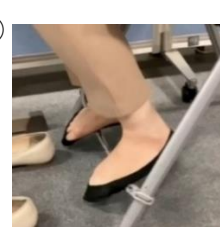
②



③



④



○最新の「支援機器・グッズ」2種類を指導部 総合育成支援課に導入し、試行・研究のうえ、学校への貸出を実施

支援機器等名称・性能	対 象	主な効果
①ペン型スキャナー (読み上げてほしい箇所をなぞるだけで音声読み上げをしてくれる)	読むことが苦手だが音声であれば理解しやすい児童生徒	・無線対応のワイヤレスイヤホンと併用することで、読み上げ音声に集中できた。
②電子式イアーマフ (必要に応じてボリュームを調整し、聞きたい音を適切な音量で聞くことができる)	聴覚過敏や周囲の雑音が気になり授業に集中することが難しい児童生徒 デジタル耳栓のイヤホンを装着する感覚が苦手な児童生徒	・騒音の音量全体を低減することができ、テストや自習に集中して取り組むことができた。

①



②



事業の成果・今後の展望等

○「支援機器・グッズ」をより多くの児童生徒が使用できる環境が整うとともに、学校現場の教員にとって、「支援機器・グッズ」がより身近な存在になり、通級指導教室担当者以外の教員にも普及・啓発が進み、学校における合理的配慮の認識が高まった。

○LD等通級指導教室設置校での貸出が多い状況であったことから、今後、周辺校においても貸出が活性化するよう、「支援機器・グッズ」の効果を更に周知していくとともに、一人ひとりの困りに最適な支援を行えるよう、最新機器の研究を進める。

問い合わせ先

京都市教育委員会指導部総合育成支援課 (075-352-2285)